

「世界＋日本＋クラフト」ビール産業レポート @2019



- ビールの世界マーケットサイズ
- 世界のビールトップ3社、中国のビールトップ3社
- 日本のビール4社の海外生産量
- アメリカと日本のクラフトビールの状況

- 世界市場サイズについて1975年以降の長期動向、グローバルトップ3社（AB InBev、ハイネケン、カールスバーグ）と中国トップ3社（華潤、燕京、青島）のこの10年の状況をまとめてみた。2018年までの実績情報を収載している。
- グローバルトップブランドはアニュアルレポートで世界各地でつくった自社のビール総生産量を毎年発表している。一方、日本の4社（アサヒ、麒麟、サントリー、サッポロ）は、「国内生産量」については組合情報などで知ることができるが、株式を保有する海外のビール会社による「海外生産量」についてはあまり知られていない。ドイツのホップの会社BARTH-HAAS社が毎年公表する世界のビール業界のレポート、「バースレポート」をもとに、日本4社の海外生産量を試算してみた。
- この5年、急速に盛り上がっているアメリカと日本のクラフトビールの動向についても、2018年までの統計資料などを収載した。

当社では2013年に、ビール産業について「世界情勢」「日本情勢」「地ビール」の3本のレポートを作成し公開している。

http://www.kitasangyo.com/pdf/archive/world-alcoholic/Beer_Ind_1.pdf

http://www.kitasangyo.com/pdf/archive/world-alcoholic/Beer_Ind_2.pdf

http://www.kitasangyo.com/pdf/archive/world-alcoholic/Beer_Ind_3.pdf

本レポートは、長らく更新していなかった、その後の情勢をまとめたもの。なお、「クラフトビール」については2018年に下記を公開している。

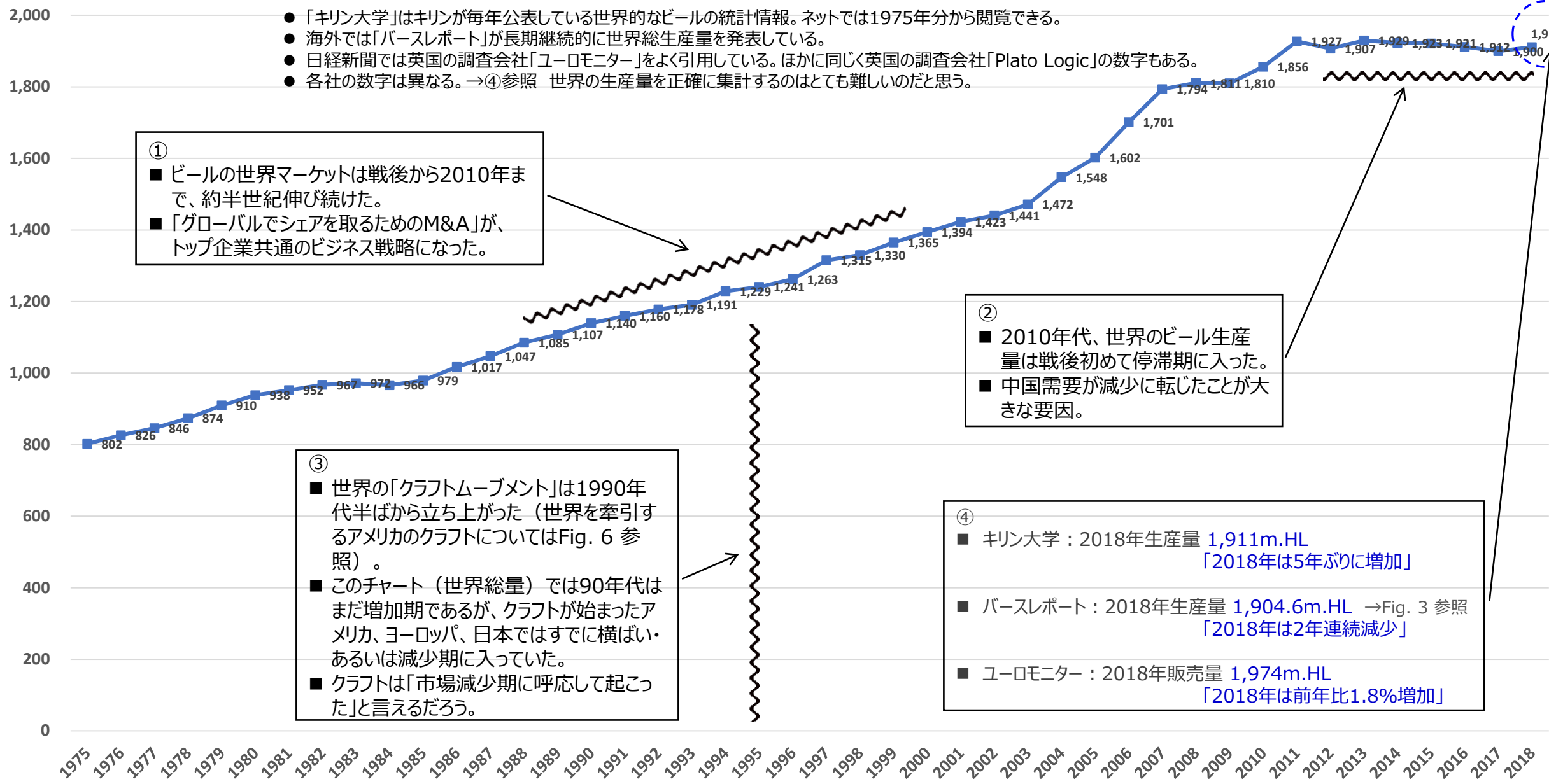
http://www.kitasangyo.com/pdf/archive/world-alcoholic/c.beer_2018.pdf

Figure 1.

世界のビール総生産量 1975-2018 by キリン大学

Unit = mil. HL

- 「キリン大学」はキリンが毎年公表している世界的なビールの統計情報。ネットでは1975年分から閲覧できる。
- 海外では「バースレポート」が長期継続的に世界総生産量を発表している。
- 日経新聞では英国の調査会社「ユーロモニター」をよく引用している。ほかに同じく英国の調査会社「Plato Logic」の数字もある。
- 各社の数字は異なる。→④参照 世界の生産量を正確に集計するのはとても難しいのだと思う。



①

- ビールの世界マーケットは戦後から2010年まで、約半世紀伸び続けた。
- 「グローバルでシェアを取るためのM&A」が、トップ企業共通のビジネス戦略になった。

②

- 2010年代、世界のビール生産量は戦後初めて停滞期に入った。
- 中国需要が減少に転じたことが大きな要因。

③

- 世界の「クラフトムーブメント」は1990年代半ばから立ち上がった（世界を牽引するアメリカのクラフトについてはFig. 6 参照）。
- このチャート（世界総量）では90年代はまだ増加期であるが、クラフトが始まったアメリカ、ヨーロッパ、日本ではすでに横ばいあるいは減少期に入っていた。
- クラフトは「市場減少期に呼応して起こった」と言えるだろう。

④

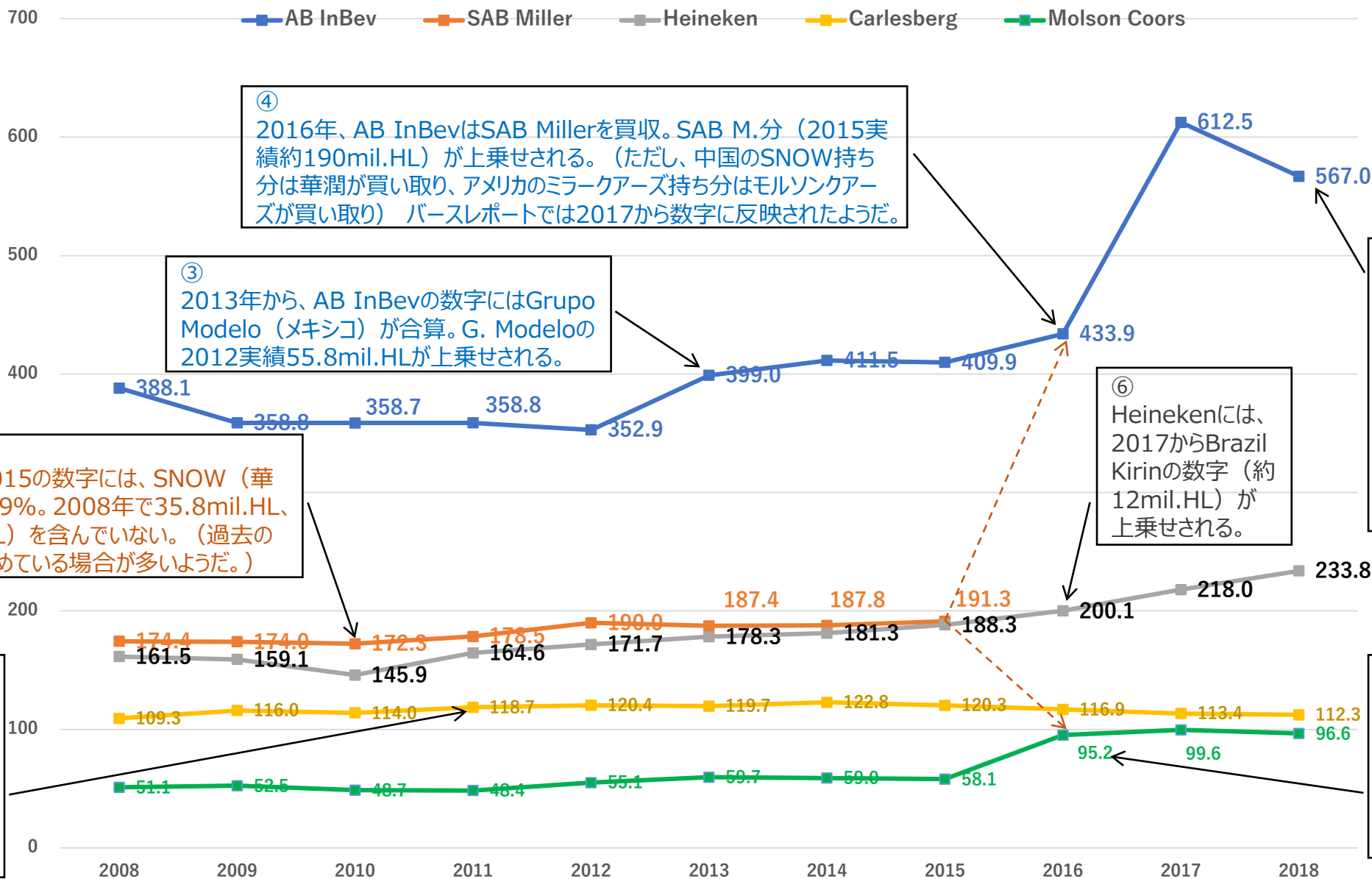
- キリン大学：2018年生産量 1,911m.HL
「2018年は5年ぶりに増加」
- バースレポート：2018年生産量 1,904.6m.HL →Fig. 3 参照
「2018年は2年連続減少」
- ユーロモニター：2018年販売量 1,974m.HL
「2018年は前年比1.8%増加」

Figure 2.

「グローバル・トップ3」の生産量 2008-2018 by Barth Report

- 「バースレポート」：ホップの会社、BARTH-HAAS社がつくる年次レポート。1911年から100年以上継続している。ネットで閲覧可能。
- 2019年現在の「グローバル・トップ3」：AB InBev、ハイネケン、カールスバーグを指す。SABミラーとモルソンクアーズは、説明のため表示。

Unit = mil. HL



① SAB Millerの2008-2015の数字には、SNOW（華潤・雪花）の持ち分（49%。2008年で35.8mil.HL、2015年で57.5mil. HL）を含んでいない。（過去の日本の新聞報道では含めている場合が多いようだ。）

② SAB Millerは2011末、Foster's（オーストラリア）を買収。Foster's分（2011実績7.7mil.HL）が上乗せ。これが2020にアサヒに行く。

④ 2016年、AB InBevはSAB Millerを買収。SAB M.分（2015実績約190mil.HL）が上乗せされる。（ただし、中国のSNOW持ち分は華潤が買い取り、アメリカのミラークアーズ持ち分はモルソンクアーズが買い取り）バースレポートでは2017から数字に反映されたようだ。

③ 2013年から、AB InBevの数字にはGrupo Modelo（メキシコ）が合算。G. Modeloの2012実績55.8mil.HLが上乗せされる。

⑥ Heinekenには、2017からBrazil Kirinの数字（約12mil.HL）が上乗せされる。

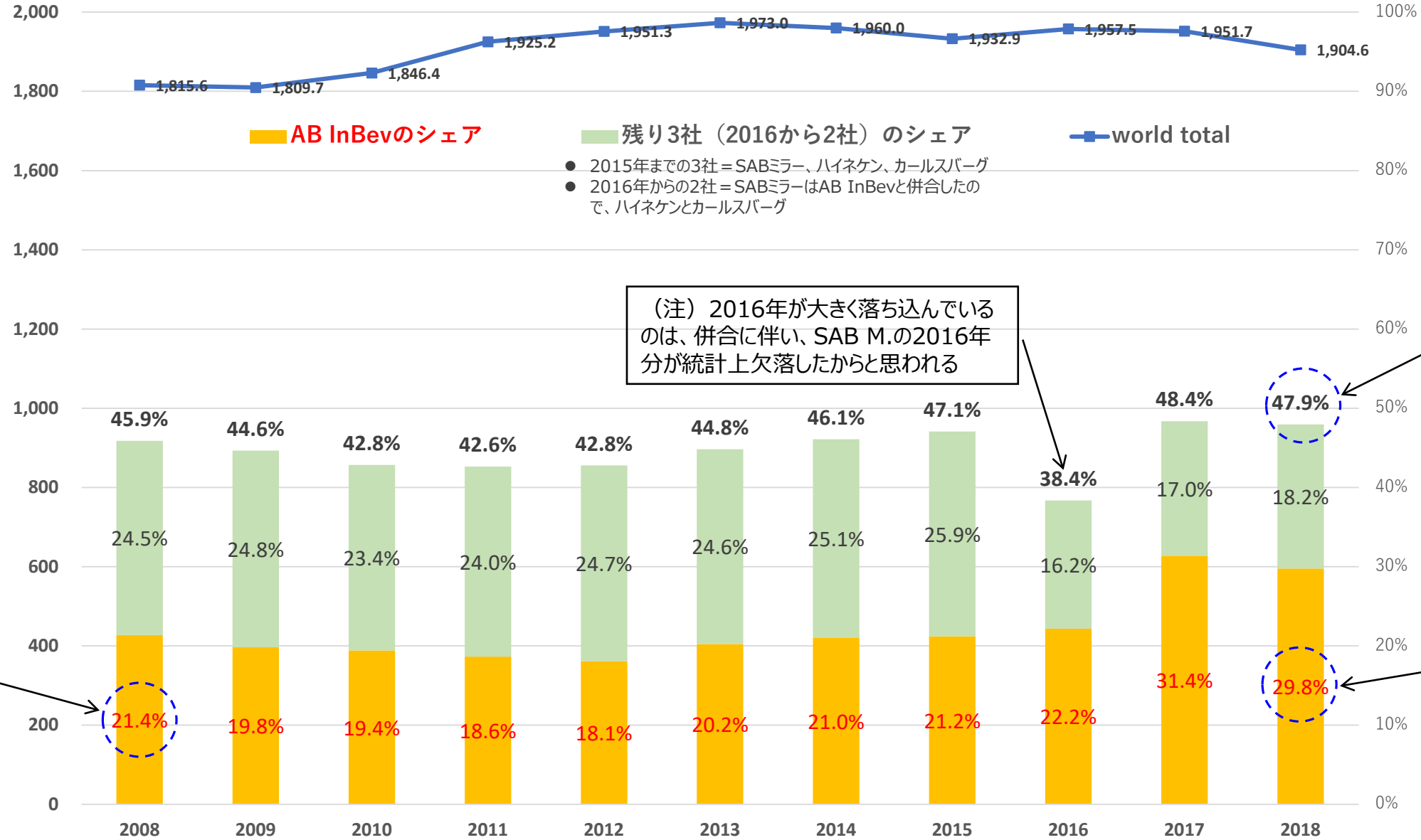
⑦ 2016-17年、AB InBevは負債圧縮などの目的で、Urquellなど旧SAB M.の数銘柄を放出。2017から2018は数字が下がる。2019と2020はブランド売却などにより、さらに減少を予測。

⑤ AB InBevのSAB Miller買収に伴い、アメリカのミラークアーズ社のミラー分はモルソンクアーズに売却。独禁法抵触回避のため。

Figure 3.

世界生産量と「グローバル・トップ3」のシェア 2008-2018 by Barth Report

Unit = mil. HL



① アメリカ1位のAB (アンハイザーブッシュ) はベルギーのInBevに買収されてAB InBevとなったのが、2008年。この時点で1社でほぼ20%のシェア

(注) 2016年が大きく落ち込んでいるのは、併合に伴い、SAB M.の2016年分が統計上欠落したからと思われる

③ グローバルトップ3の合計シェアはほぼ50%、世界の2本に1本に相当 (Table 1も参照の事)

② 世界1位のAB InBevは1社でほぼ30%の圧倒的シェア。2017年から10%積み増すことに成功した。

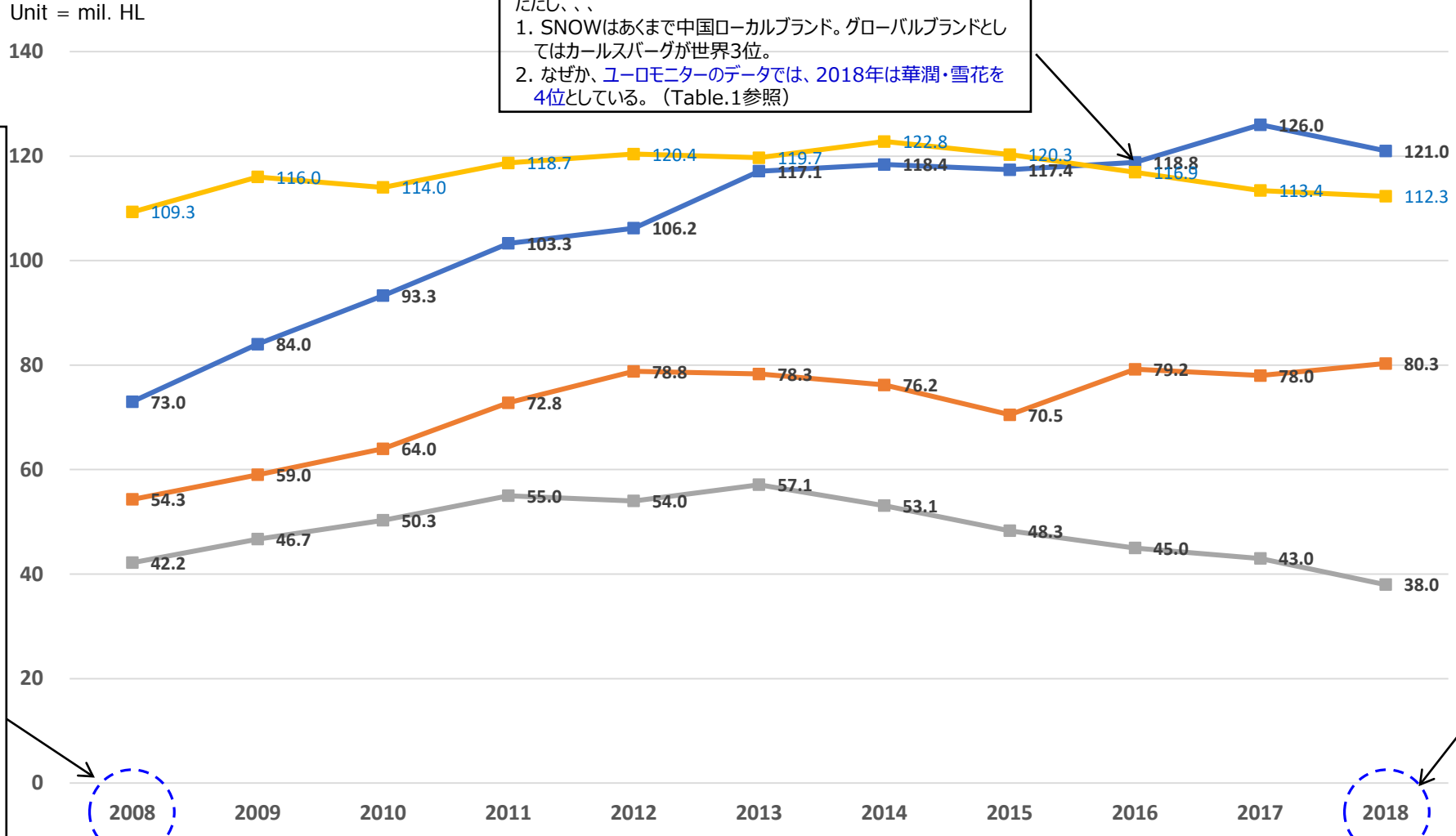
Figure 4.

中国のトップ3ブランドの生産量2008-2018 by Barth Report

■ China R. Snow 華潤・雪花ビール
■ Tsingtao 青海ビール
■ Yanjing 燕京ビール
■ Carlsberg 比較のためカールスバーグを掲載

華潤・雪花の2008-2015の数字は、SAB Millerの持ち分を差し引いていない(Fig.2の①コメント参照)

2016年から、生産量世界3位は華潤・雪花。AB InBevとSAB Miller統合に伴いSAB Millerの持ち分も買い戻したので、実質的世界3位。(Fig.2の①コメント参照)
 ただし、...
 1. SNOWはあくまで中国ローカルブランド。グローバルブランドとしてはカールスバーグが世界3位。
 2. なぜか、ユーロモニターのデータでは、2018年は華潤・雪花を4位としている。(Table.1参照)

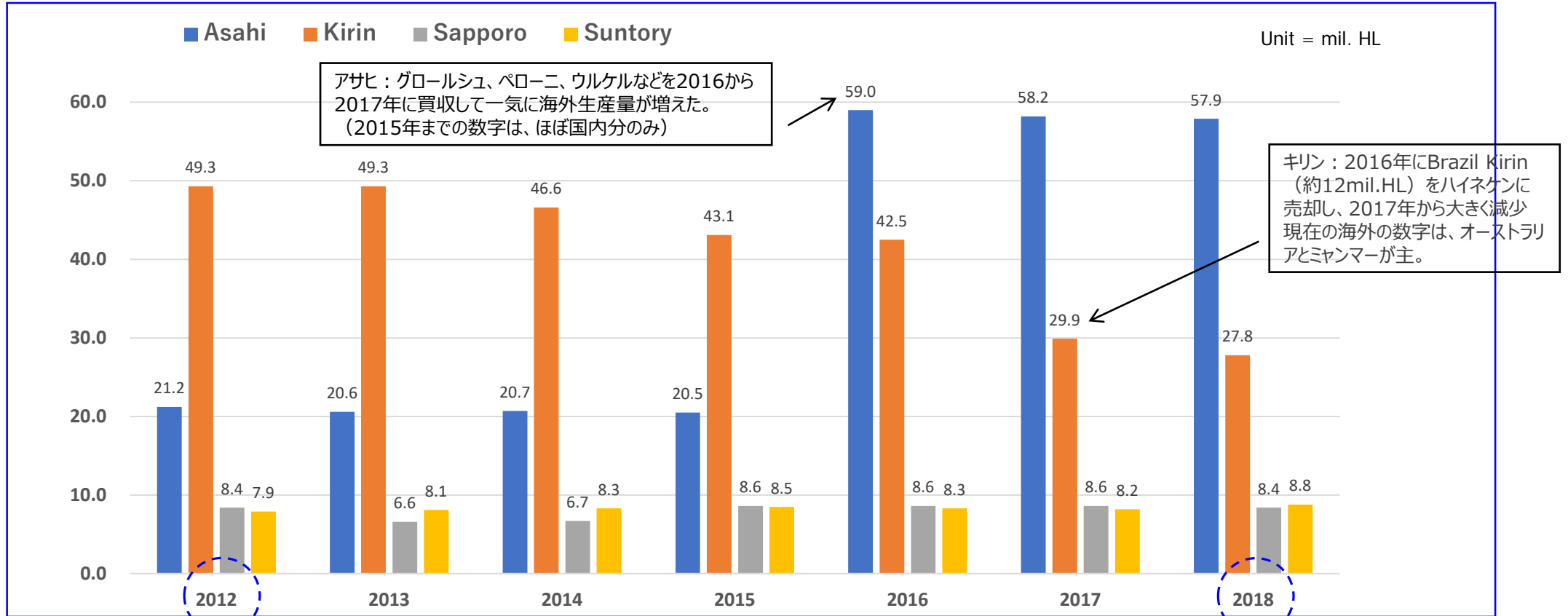


- @2008年の世界ランキング
- 1位 AB InBev
 - 2位 SAB Miller
 - 3位 ハイネケン
 - 4位 カールスバーグ
 - ▲ 5位 華潤雪花
 - ▲ 6位 青島
 - 7位 Gruppo Modelo
 - 8位 Molson Coors
 - ▲ 9位 燕京
 - 10位 Femsa (メキシコ)
 - 11位 アサヒ
 - 12位 キリン
 - 13位 Efes (トルコ)
 -
 - 16位 DIADEO・ギネス
 -
 - 35位 サントリー
 -
 - 37位 サッポロ

- @2018年の世界ランキング
- 1位 AB InBev
 - 2位 ハイネケン
 - ▲ 3位 華潤雪花
 - 4位 カールスバーグ
 - 5位 Molson Coors
 - ▲ 6位 青島
 - 7位 アサヒ
 - 8位 BGI (フランス)
 - ▲ 9位 燕京
 - 10位 Efes (トルコ)
 - 11位 ペトロポリス (ブラジル)
 - 12位 キリン
 -
 - 15位 DIADEO・ギネス
 -
 - 25位 サントリー
 -
 - 28位 サッポロ

Figure 5a

[A] = 日本の4社、世界生産量 2012-2018 (by Barth Report)



バースレポート順位@2012年

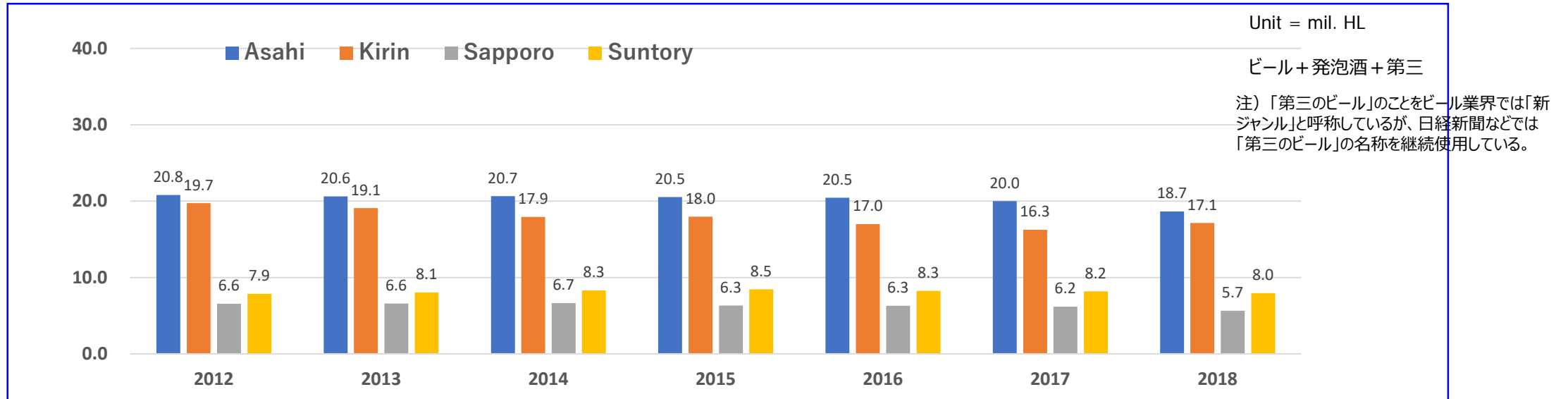
- キリン : 世界10位、シェア2.5%
- アサヒ : 世界13位、シェア1.1%
- サッポロ : 世界31位、シェア0.4%
- サントリー : 世界34位、シェア0.4%

バースレポート順位@2018年

- アサヒ : 世界7位、シェア3.0%
- キリン : 世界12位、シェア1.5%
- サントリー : 世界25位、シェア0.5%
- サッポロ : 世界28位、シェア0.4%

Figure 5b

[B] = 日本の4社、国内生産量 2012-2018 (by 酒類食品統計月報)



(参考情報) 「日本国内」の4社のシェアランキング (ビール+発泡酒+第三) の歴史

1949年：大日本麦酒が、集中排除法で、アサヒとサッポロに分割される

1950年代初頭： 1位サッポロ、2位アサヒ、3位麒麟

1953年～2000年： 1位麒麟 (1位を48年継続。特に70年初頭から80年代半ばまでシェア60%越えだった)

1963年：サントリー、ビールに再参入 (戦前、寿屋は「オラガビール」を経営していたので「再」参入)

1970年代～1987年： 1位麒麟、2位サッポロ、3位アサヒ、4位サントリー

1983年：アサヒ、「スーパードライ」発売

1988年～2000年： 1位麒麟、2位アサヒ、3位サッポロ、4位サントリー

1990年：麒麟、「一番搾り」発売 (フラッグシップブランドを従来の「ラガー」からオールモルトの「一番搾り」(海外では「Ichiban」) に切り替える戦略)

1994年：サントリー、発泡酒の「ホップス」発売 (初の発泡酒)

2003年：サントリー、「プレミアムモルツ」発売

2004年：サッポロ、第三のビールの「ドラフトワン」発売 (初の第三)

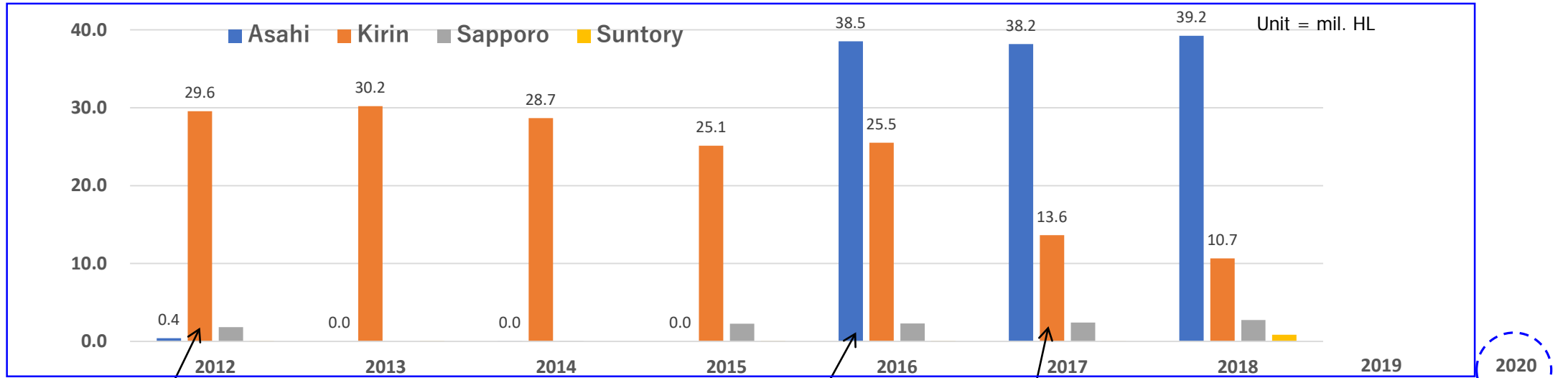
2001年～2007年： 1位アサヒ、2位麒麟、3位サッポロ、4位サントリー

2008年～現在： 1位アサヒ、2位麒麟、3位サントリー、4位サッポロ

(2009年は麒麟が1位になったが、2010年以降、再びアサヒが1位)

Figure 5c

[A] - [B] =日本の4社、海外生産量 2012-2018



Lion Nathan (オーストラリア) + Brazil Kirin (ブラジル, ex-Schincariol)

AB InBevから、Peroni (イタリア)、Urquell (チエコ) など取得したので増

Brazil Kirinをハイネケンに売却したので減

2020年、アサヒは Carlton United (オーストラリア approx. 8 mil. HL) 取得見込み

- AB InBev、ハイネケン、カールスバーグなどの世界トップブランドは、アニュアルレポートで、金銭的決算に並ぶ成果報告として、世界の自社の総ビール生産量を発表している。一方、日本大手4社については（国内のビール生産量については組合や業界紙情報で知ることができるものの）、海外の生産量や、世界総生産量には公表しない（と思う）し、業界情報としてもあまり知られていない。
- そこで、試みに「Fig. 5a バースレポートの世界生産量」から「Fig. 5b 国内生産量」を差し引いて「Fig. 5c 海外生産量」を推定した。単純な引き算で、実際の数字をどの程度反映しているかわからない→下記の説明参照。
- ここでは「バースレポート」の数字を用いたが、日経新聞などでは英国の調査会社「Euromonitor International」の数字をよく引用している。ほかに英国の調査会社「Plato Logic」なども世界各社のビール生産量を毎年調査している。
- 「バースレポート」と「Euromonitor」の数字は異なる。「バースレポート」のAB InBevやハイネケンの数字は、アニュアルレポートで自社が公表している数字と合致するが、「Euromonitor」は違う数字を用いている？ 2018の世界シェアも、右表のようにずいぶん違う。AB InBevの3.6%の差は、アサヒの世界生産量以上に相当する大差。株式保有会社の扱いや委託・受託の扱いの違いが大きいと思われる。
- 100%子会社の生産分を加算することに異論はないだろうが、持ち株比率50%以下のビール生産会社の生産量の扱いはむづかしい。SAB M.は2015年まで、中国1位のSNOWの49%の株を所有していた。EuromonitorやPlato L.ではSNOWの生産の49%をSAB M.に加算していたようだが、Fig.2で述べたようにバースレポートでは加算していない。キリンは以前からフィリピン1位のサンミゲルの48.4%の株を保有しているが、これはFig.5cには反映していない。アサヒも2018年まで、中国2位の青島ビールの20%の株を保有していたが、これはどの統計でもアサヒの世界生産量には全く加算されていない。
- さらに言えば、キリン・アサヒ・サッポロの3社は世界各国で、現地の有力ビール会社に自社ブランド品を生産委託している。一方、例えば、キリンも国内工場にハイネケンやブルックリンの受託製造を行っている。そんな数字はどこにどう加算・減算すべきなのか、、、話は複雑である。

Table 1. 2018年のシェア、情報ソースによる差

	バースレポート	Euromonitor	差
1位・AB InBev	29.8%	26.2%	+3.6%
2位・Heineken	12.3%	11.1%	+1.2%
3位・華潤・雪花	6.4%	(4位) 5.8%	+0.6%
4位・Carlsberg	5.9%	(3位) 5.8%	+0.1%
5位・Molson Coors	5.1%	4.7%	+0.4%
7位・アサヒ	3.0%	3.2%	▲0.2%

ユーロモニターの数字は2019年7月の一連の日経新聞の記事に記載されたもの

Table 2a

日本の4社の、海外におけるビールビジネスの展開状況@2019年9月

	資本関係のある、 海外のビール生産子会社・関連会社	資本関係のない、 海外の自社ブランド生産委託先	資本関係のある、 海外のクラフトビール	(参考) 日本の自社工場で受託生産する 海外ブランド・PBブランド
キリン	<ul style="list-style-type: none"> ライオン (オーストラリア、現在シェア2位) マンマー・ブルワリー (マンマー) サンミゲル (フィリピン、48.4%) 	フラッグシップブランド「キリン一番」の生産委託先 <ul style="list-style-type: none"> AB InBev (アメリカ) ヴァイヘンシュテファン (ドイツ) ほか 中国向け、オーストラリア向けなどで「キリン一番」以外のブランド名のキリン商品も製造委託	<ul style="list-style-type: none"> ブルックリン (アメリカNY、24.5%) オーストラリアのいくつかのクラフトブランド (ライオン傘下のクラフト) 	<ul style="list-style-type: none"> ハイネケン ブルックリン イオンのPB第三のビール ヤッホーのビールの一部 (サントリーの後、バドワイザーを受託生産していたが、2018年で終了)
アサヒ	<ul style="list-style-type: none"> インディペンデントリカー (ニュージーランド) ペローニ (イタリア) ピルスナーウルケル (チェコ) Ursus Breweries (ルーマニア) グロールシュ (オランダ) Fuller, Smith and Turner (英国) 北京啤酒朝日有限公司 (中国) ほか (注: 「アサヒは」欧州に16の(ビールの)生産拠点がある」 2019年9月11日の日経新聞) → 2020年にカールトンユナイテッド (オーストラリア、現在シェア1位) を買収予定	フラッグシップブランド「スーパードライ」の生産委託先 <ul style="list-style-type: none"> スタロップラーメン (チェコ) シェパードニーム (英国、中止?) ほか アジア向けなどで、「スーパードライ」以外のブランド名のアサヒ商品も製造委託	<ul style="list-style-type: none"> Meantime Brewing (英国) ほか → 2020年に買収するカールトンユナイテッドに、傘下のクラフトがついてくる	(なし)
サッポロ	<ul style="list-style-type: none"> サッポロUSA (アメリカ WI) スリーマンブリュワーイング (カナダ) サッポロベトナム (ベトナム) 	フラッグシップブランド「サッポロプレミアム」(日本のサッポロ黒ラベル)に相当)の生産委託先 <ul style="list-style-type: none"> EU内で委託先あり(委託先非公開?) 	<ul style="list-style-type: none"> アンカーブリュワーイング (アメリカ CA) …ただし、100%買収なので、Brewers Associationの定めるクラフトの定義(「大手酒類企業の持ち分が25%未満」)に合致しなくなった 	(かつて、イオンのPB第三のビールを手掛けた)
サントリー	(なし)	フラッグシップブランド「プレミアムモルツ」の生産委託は、「ない」 青島啤酒(中国)が、中国国内向けに「三得利ブランド」を製造	(なし)	(かつて、バドワイザーを受託生産していた) (かつて、セブンアイのPB第三のビールを手掛けた)

- Table 2a.は、公表された情報などで作成。ただし目まぐるしく情勢が変わるので、特に海外生産委託先については筆者は現状の正確な状況を補足していない。間違いや抜けがあるかもしれない。
- 2013年の状況は、より詳細に情報収集している。右の資料の10-11ページを参照 → http://www.kitasangyo.com/pdf/archive/world-alcoholic/Beer_Ind_2.pdf
- アサヒが買収するカールトンユナイテッドがオーストラリア1位になったのは数年前。それまではキリン傘下のライオンが1位だった。オーストラリアの1位・2位は相当競い合っている状況。
- サントリーの海外事業展開はウイスキー・スピリッツ中心。ビールについては日本からの輸出が基本。(「天然水」にこだわるマーケティング)

Table 2b

日本の4社の、海外におけるビールビジネスの展開状況：「近代の歴史編」

	資本を撤退・売却した、 海外のビール生産拠点、主な過去事例
キリン	<ul style="list-style-type: none"> 「ブラジル・キリン」（ブラジル、元の「スキンカリオール」 2011年に買収）を2017年にハイネケンに売却
アサヒ	<ul style="list-style-type: none"> 青島啤酒の株約20%を保有していたが、2018年に売却 1990年代の話だが、カールトンユナイテッドの前身のフォスターズの約20%を保有していた。しかし1997年に売却。今回それをまた買い戻すことになる。
サッポロ	<ul style="list-style-type: none"> （資本関係ではないが、かつてサッポロはギネスビールを日本で販売していたが、ディアジオ（ギネスの親会社）の方針に従って提携解消）
サントリー	<ul style="list-style-type: none"> 「三得利啤酒」ブランドで1996年に中国・上海に自社工場進出、90年代末には上海でシェア1位となったが、2015年青島啤酒に株を売却、自社生産は撤退。

Table 2c

日本の4社の、海外におけるビールビジネスの展開状況：「戦前のこと・・・古い歴史編」

		資本を撤退・売却した、 海外のビール生産拠点、主な過去事例
キリン	(韓国) OBビール	<ul style="list-style-type: none"> 戦前、日本は朝鮮半島を領有した。その当時、麒麟麦酒が朝鮮資本と共同出資で昭和麒麟麦酒を設立。戦後は斗山が引き継ぎ、東洋ビール（Oriental Brewery）となり、その後、現社名の「OBビール」となる。現在はAB InBev傘下。 なお、斗山（Doosan）は清酒の「白花寿福」も持っていたが、2010年にLOTTEに売却。
大日本麦酒（アサヒ・サッポロ）	(韓国) Jinro Hite	<ul style="list-style-type: none"> 上記の「昭和麒麟麦酒」設立と同時に、大日本麦酒は「朝鮮麦酒」を設立。やはり朝鮮資本との共同出資。 戦後は韓国資本が引き継ぎ、長らく「CROWN」ブランドを使っていたが、1990年代に発売した「HITE」がヒットして社名もハイトに。2006年に焼酎の眞露を併合して現社名に。
大日本麦酒（アサヒ・サッポロ）	(中国) 青島ビール	<ul style="list-style-type: none"> 戦前、ドイツに代わって日本が中国の青島（チンタオ）を領有した。 ドイツ人が始めた青島ビールは日本が引き継ぎ、1914年から1945年まで、大日本麦酒の青島工場として運営された。
大日本麦酒（アサヒ・サッポロ）とキリン	(中国) 華潤雪花	<ul style="list-style-type: none"> 満州時代の1934年に大日本麦酒と麒麟麦酒の合併で奉天に設立された満州麦酒（満州ビール）は第二工場を1936年に建設し、これは戦後1945年に遼寧省営醸造廠となり、1949年に瀋陽ビール工場、1957年に雪花ビールと名称を変え、1994年に華潤創業の買収により華潤雪花ビール（中国）となり、現在は瀋陽華潤雪花ビールと呼ばれている。（wikipediaから）
(日本の台湾総督府専売局)	(台湾) TTL	<ul style="list-style-type: none"> 戦前のお酒は、日本国内や朝鮮半島では専売でなかったけれど、台湾総督府はある時期から専売制度を実施した。台湾総督府専売局は、戦後は台湾政府公売局として受け継がれ、今は民営化され、「TTL」（台湾タバコリカー社）。現在台湾のビールで圧倒的シェア。

風が吹けば桶屋が儲かる＝「ミラーは今や、(モルソン) クアーズのブランド」

アメリカ生産量2位はシカゴの「ミラー・クアーズ」社（Table.3b参照）。「ミラー」と「クアーズ」は米国で販売量2位と販売量3位のブランド。本来ライバルブランドだが、圧倒的1位の「バドワイザー」（AB＝アンハイザー・ブッシュ）に対抗するため、「SAB ミラー」社と「モルソンクアーズ」社がアメリカ国内対応で設立した会社。2007年設立。同じ工場で、2つのライバルブランドを生産する。（日本でいえば、コニカ・ミノルタとか、三井・住友のような感じか。）

「SAB ミラー」社と「モルソンクアーズ」社は、毎年それぞれの世界ビール生産量を発表するとき、アメリカ分については、「ミラー・クアーズ社」の生産量のうち、「ミラー」の数量はSAB Millerにカウントし、「クアーズ」の数量はモルソンクアーズとしてカウントしていた（または、持ち分の58%と42%に応じてカウントしていた。）

SAB Millerが、2016年にAB InBevに買収される時、ミラー・クアーズ社の持ち分58%はモルソンクアーズに売却された（独禁法対策＋資金対策） その結果、「ミラー」ブランドはモルソンクアーズのものになった。

現在は「ミラー」の数量も「クアーズ」の数量も、モルソンクアーズにカウントされる。「ミラー」は、SAB Miller社の社名に冠された主カブランド。そのミラーがSAB Millerを取得したAB InBevに行かず、モルソンクアーズになった、、、縮めて言えば「ミラーがクアーズになった」というのは、、、全くもってピンと来ない状況である。アメリカ国外で売られる「ミラー」も、モルソンクアーズのブランドとなっている。

- バドワイザー：1876年にアメリカ・MO州セントルイスで創業。現在、そして過去数十年にわたって、アメリカで1番の販売量の多いビールブランド。2008年にベルギーのインベブが買収、AB InBev社となった。本社はベルギー。
- ミラー：1855年にアメリカ・WI州ミルウォーキーで創業。バドワイザーに次ぐアメリカ2番目の販売量のブランド。2002年に南アフリカのサウス・アフリカ・ブルワeriesに吸収合併され、SABミラー社（SAB Miller）となった。本社はロンドン。
- クアーズ：1873年にアメリカ・CO州ゴールデンで創業。バドワイザー、ミラーに次ぐアメリカ3番目の販売量のブランド。2005年にカナダのモルソンと併合し、モルソンクアーズ社となった。本社機能はアメリカとカナダ。

Beer Production volume over view #1, Q. Century

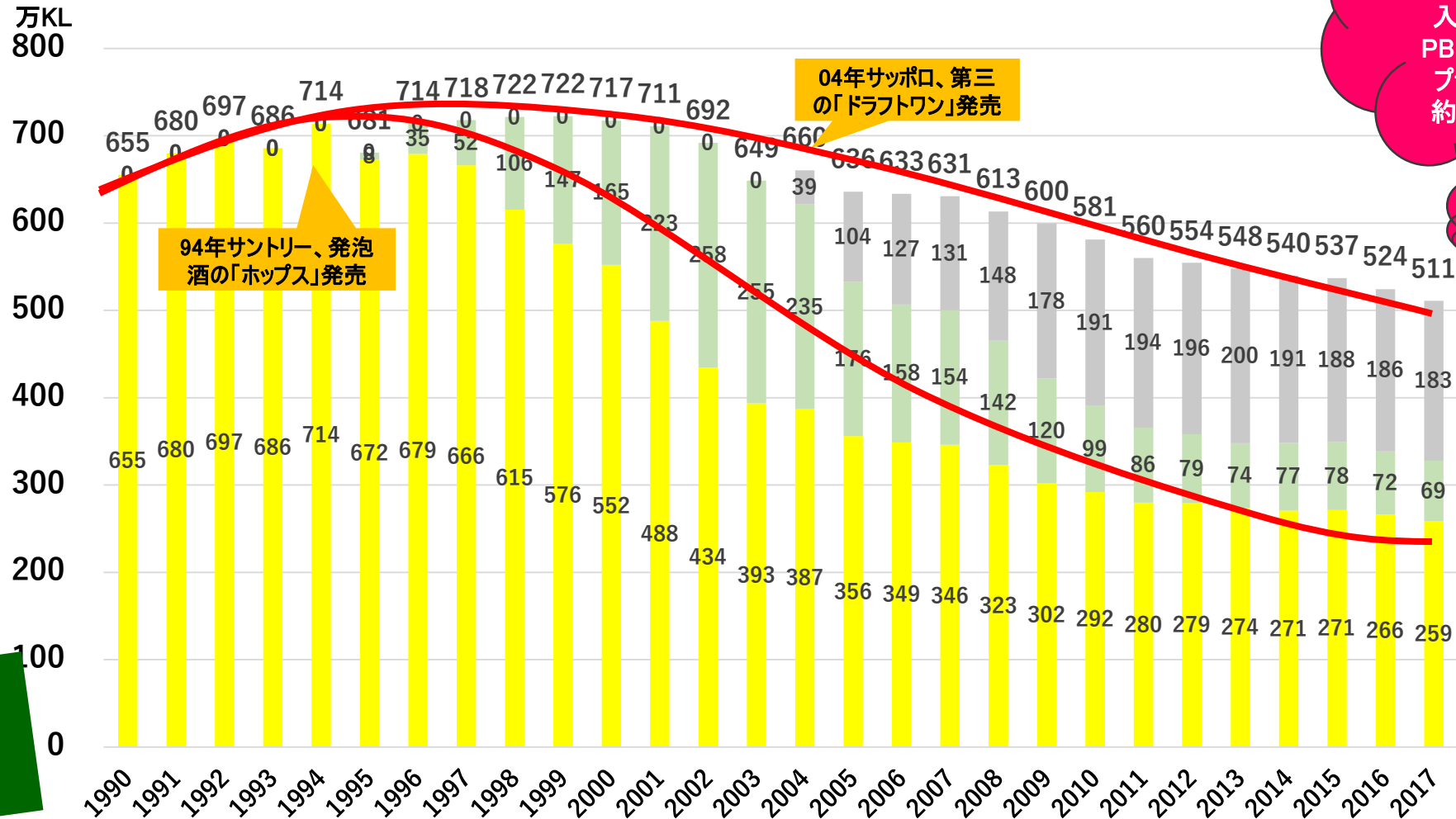
Total of Giant 5 players i.e. Asahi, Kirin, Suntory, Sapporo & Orion. Excludes Crafts & Imports

(ビール酒造組合の大手5社のみ) 出所: ビール酒造組合+発泡酒税制を考える会

参考資料
1.1

日本のビール生産量の四半世紀の推移。
「発泡酒」と「第三のビール」発売のインパクト。
(2017年までしかアップデートしていない。)

■ ビール ■ 発泡酒 ■ 第三ビ



94年サントリー、発泡酒の「ホップス」発売

04年サッポロ、第三の「ドラフトワン」発売

大手5社の511万KLのほか、地ビール・輸入ビール・輸入第三PBなどが約30万KLがプラス、大手の輸出約11.5万KLがマイナス。

法則3.
低価格政策は市場を縮小させる

●発泡酒、第三のビールは素晴らしい技術だが、「低価格商品」として発売したことがビール系全体の市場収縮を起こした原因の一つではないか??

Beer Production volume over view #1, Q. Century

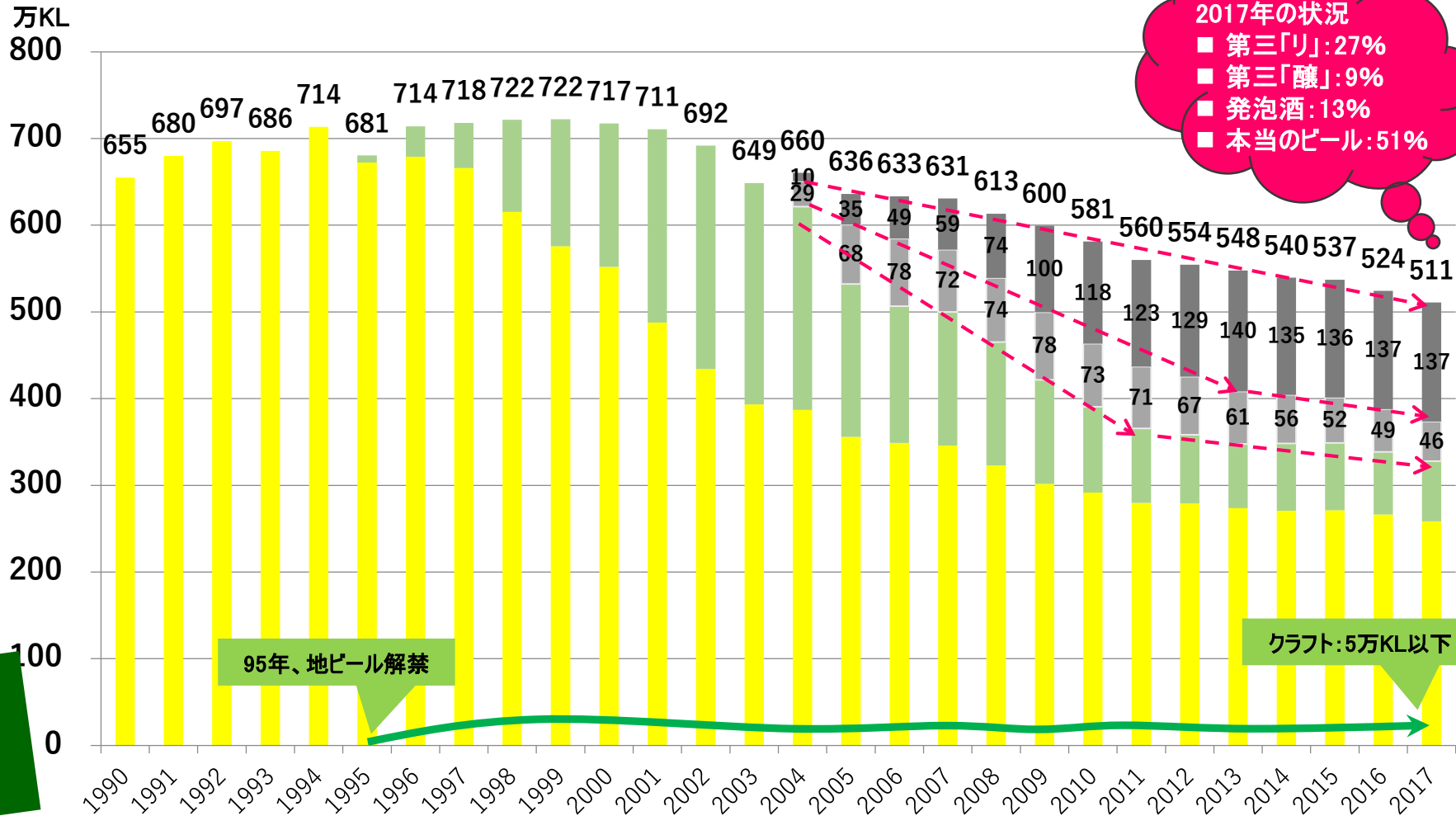
Total of Giant 5 players i.e. Asahi, Kirin, Suntory, Sapporo & Orion. Excludes Crafts & Imports

(ビール酒造組合の大手5社のみ) 出所: ビール酒造組合 + 発泡酒税制を考える会 + 当社推定

参考資料
1.2

日本のビール生産量の四半世紀の推移。「発泡酒」と「第三のビール」発売のインパクト。「第三のビール」を2種類に区分したデータ。

■ 第三ビ: リキュール (発泡性①) ■ 第三ビ: その他の醸造酒 (発泡性①) ■ 発泡酒 ■ ビール



2017年の状況
 ■ 第三「リ」: 27%
 ■ 第三「釀」: 9%
 ■ 発泡酒: 13%
 ■ 本当のビール: 51%

ビールは50%程度で
下げ止まり
第三のビールでは
「リキュール」が主流に

法則3.
低価格政策は市場を縮小させる

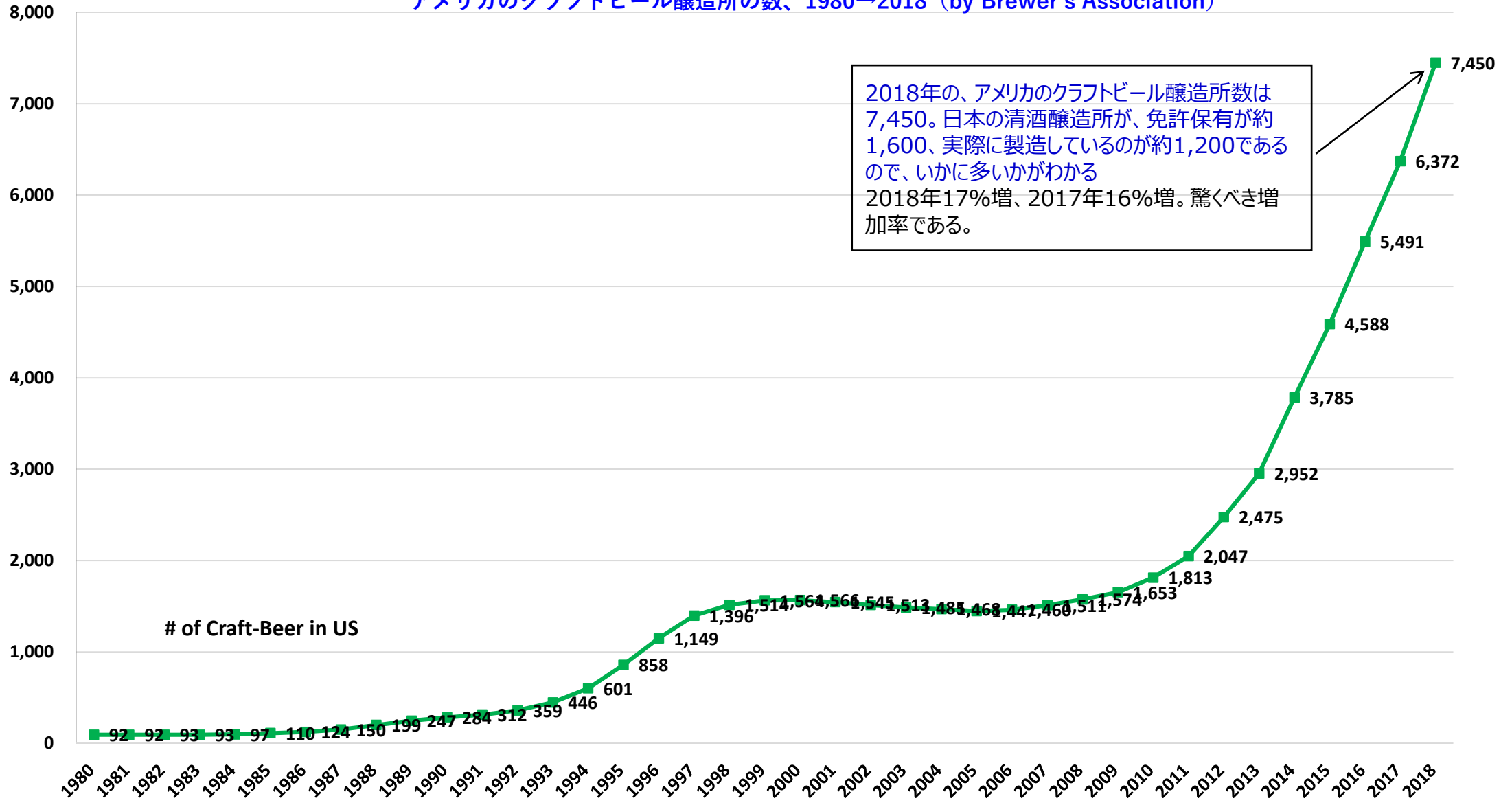
95年、地ビール解禁

クラフト: 5万KL以下

●発泡酒、第三のビールは素晴らしい技術だが、「低価格商品」として発売したことがビール系全体の市場収縮を起こした原因の一つではないか??

Figure 6.

アメリカのクラフトビール醸造所の数、1980→2018 (by Brewer's Association)



アメリカの醸造場数の150年の推移

Historical U.S. brewery count, 1873-2018 source: Brewer's Association statistics

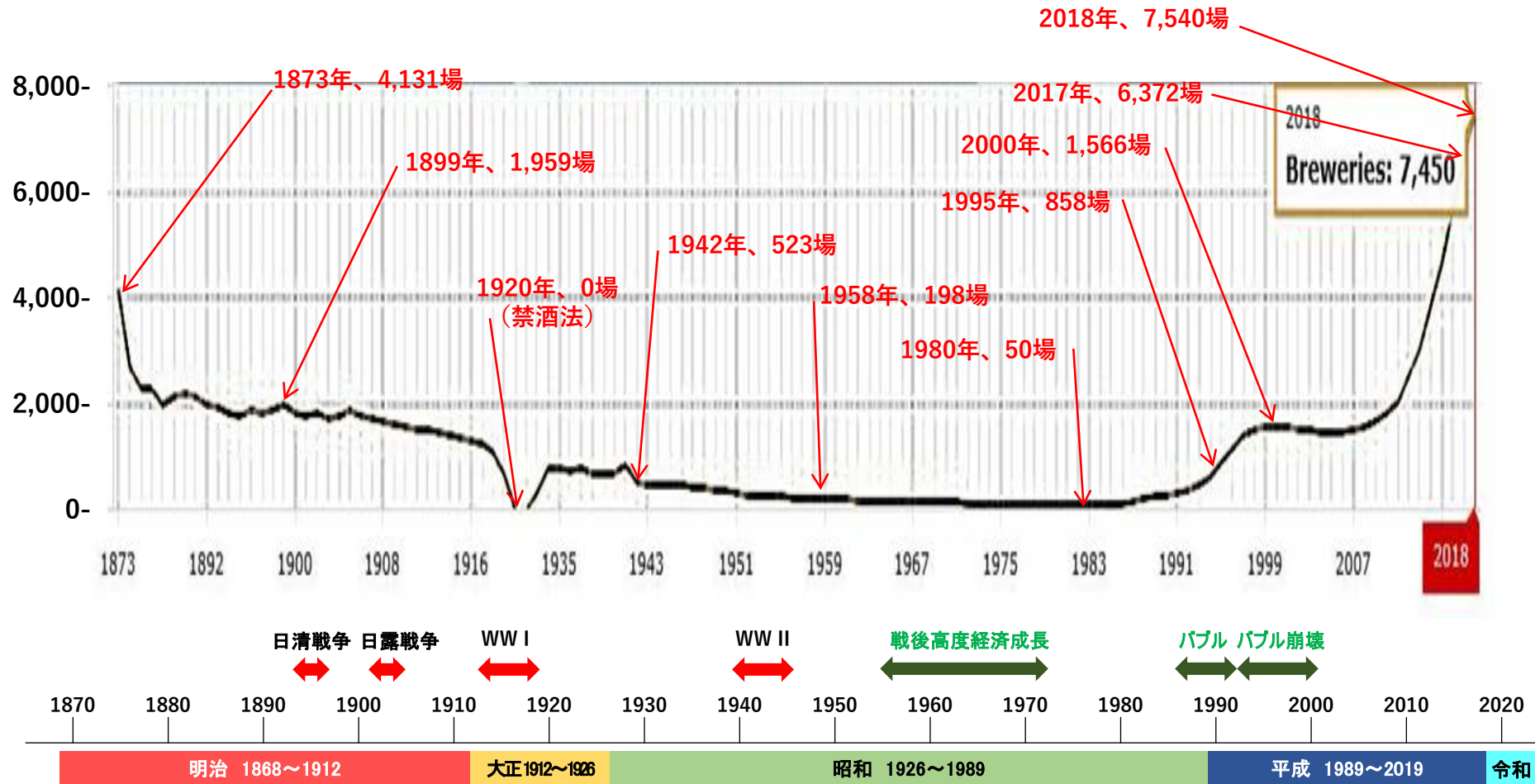


参考資料
2.1

アメリカのビール醸造所数は、150年前に比べて1.8倍に、120年前に比べて3.8倍に、増えた！

(禁酒法下で(統計上は)ゼロになったのをのぞけば) 1970-80年代に1/100に減ったが、21世紀の第2デcadeに盛り返した。

ほとんどがビール醸造所だが、特に初期のデータにはサケ醸造所も含まれると考えられる。ワイナリーは含まない。



日本の清酒の醸造場数の150年の推移

Sake manufacturing history in Japan: Numbers of Sake manufacturers

参考資料
2.2

日本の清酒醸造所数は、150年前に比べて1/20以下に、120年前に比べて1/10以下に、50年前に比べて実質1/3以下に、減少した。
1896年以前は、清酒単独は統計がなく、濁酒、焼酎などを含めた醸造場数しかない。例えば1880年は39,865場。生産量から90%以上は清酒醸造場だと考えられるので清酒蔵元は3万5,000以上と推定。

醸造場、単位：場(1871～1949年は「醸造場」、1950年～は「免許場数(主たるもの)」または「製造場数」)

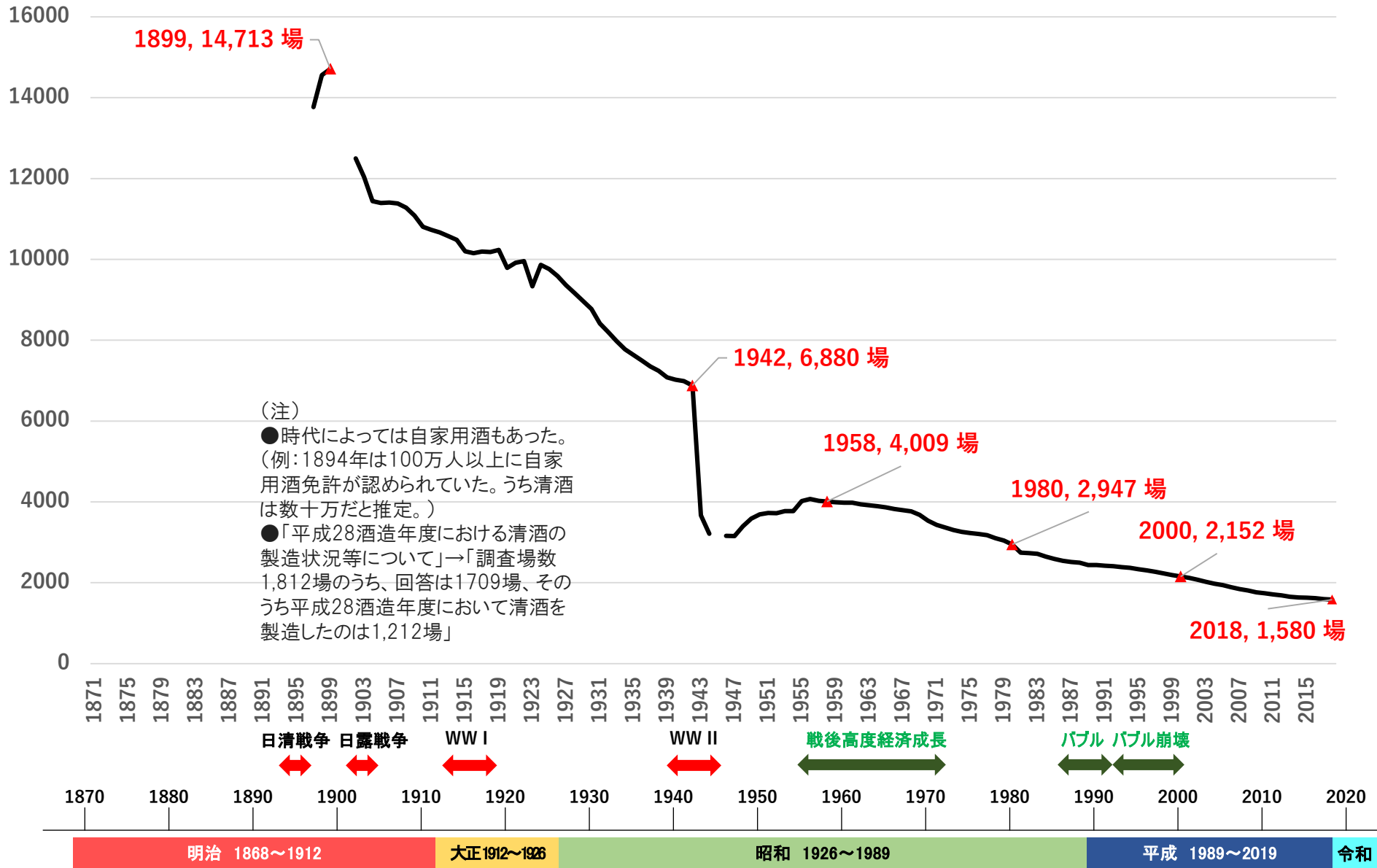


Figure 7.

日本のクラフトビール醸造所の数、1995→2019 (by Kita Sangyo Co.)

- ビール、発泡酒、特区免許を含む。麒麟・アサヒ・サッポロのブルワリーレストラン、クラフトブルワリーも含む。
- 2019年は、本レポート作成時点(2019年5月時点)での推定。

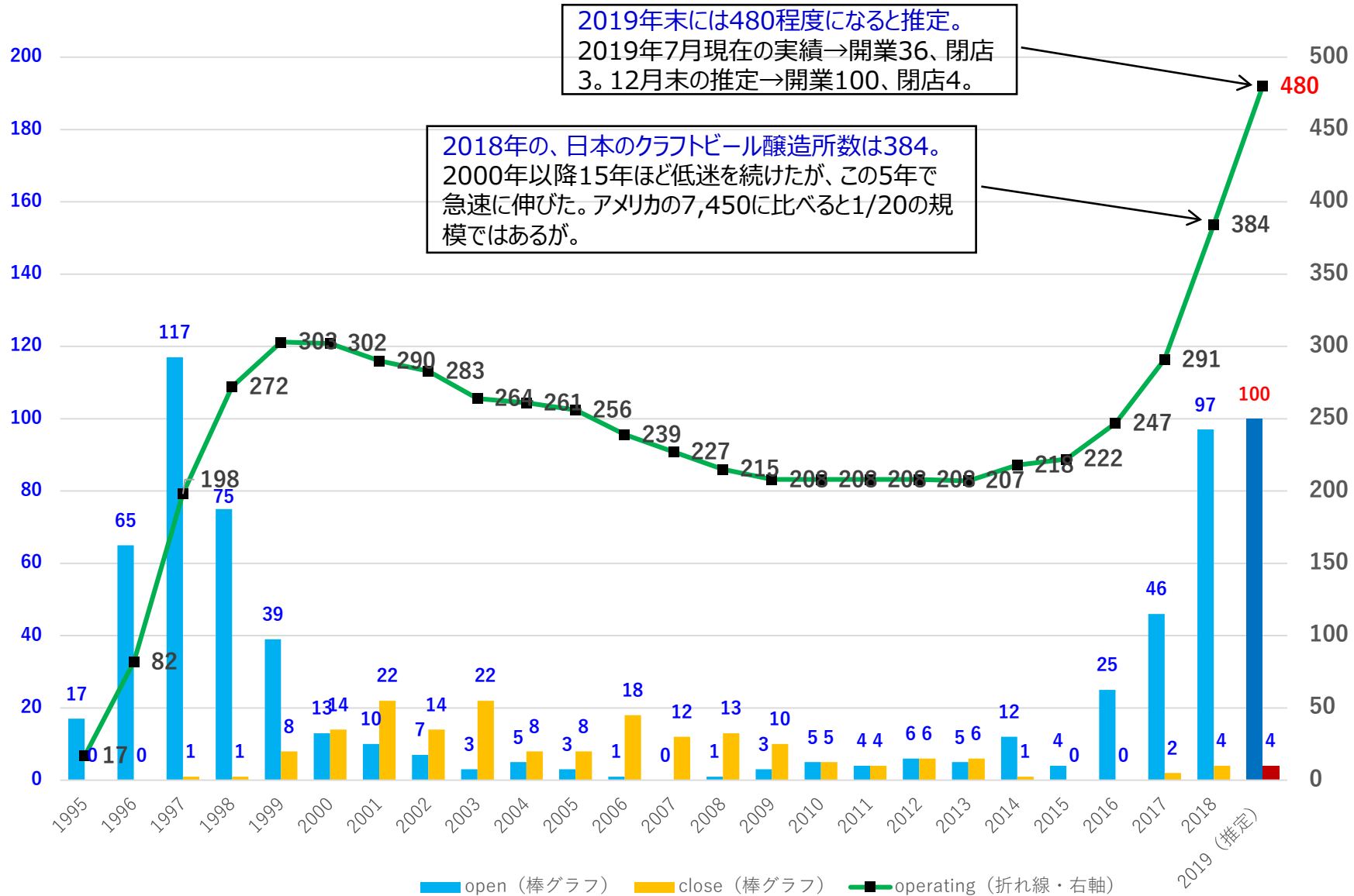


Table 3a

アメリカの[クラフト]ビール生産量トップ30@2018 (by Brewer's Association)

Rank	Brewery Name	City	State
1	D. G. Yuengling & Son Inc.	Pottsville	PA
2	Boston Beer Co.	Boston	MA
3	Sierra Nevada Brewing Co.	Chico	CA
4	New Belgium Brewing Co.	Fort Collins, San Francisco	CO, CA
5	Duvel Moortgat	Paso Robles, Kansas City, Cooperstown	CA, MO, NY
6	Gambrinus	San Antonio, Berkeley, Portland	TX, CA, OR
7	Bell's Brewery Inc.	Comstock	MI
8	CANarchy	Longmont, Tampa, Salt Lake City, Comstock, Inglewood, Dallas	CO, FL, UT, MI, CA, TX
9	Stone Brewing Co.	Escondido	CA
10	Deschutes Brewery	Bend	OR
11	Artisanal Brewing Ventures	Downingtown, Lakewood, Brooklyn	PA, NY, NY
12	Brooklyn Brewery	Brooklyn	NY
13	Dogfish Head Craft Brewery	Milton	DE
14	SweetWater Brewing Co.	Atlanta	GA
15	Minhas Craft Brewery	Monroe	WI
16	New Glarus Brewing Co.	New Glarus	WI
17	Matt Brewing Co.	Utica	NY
18	Harpoon Brewery	Boston	MA
19	Alaskan Brewing Co.	Juneau	AK
20	Great Lakes Brewing Co.	Cleveland	OH
21	Abita Brewing Co.	Abita Springs	LA
22	Stevens Point Brewery	Stevens Point	WI
23	Odell Brewing Co.	Fort Collins	CO
24	Summit Brewing Co.	St. Paul	MN
25	August Schell Brewing Co.	New Ulm	MN
26	21st Amendment Brewery	Bay Area	CA
27	Troëgs Brewing Co.	Hershey	PA
28	Rhinegeist Brewery	Cincinnati	OH
29	Shipyard Brewing Co.	Portland	ME
30	Allagash Brewing Co.	Portland	ME

Table 3b

アメリカの[大手]+[クラフト]ビール生産量トップ30@2018 (by Brewer's Association)

Rank	Brewery Name	City	State
1	Anheuser-Busch Inc. (a)	St. Louis	MO
2	MillerCoors (b)	Chicago	IL
3	Constellation (c)	Chicago	IL
4	Heineken (d)	White Plains	NY
5	Pabst Brewing Co. (e)	Los Angeles	CA
6	D. G. Yuengling & Son Inc.	Pottsville	PA
7	Diageo (f)	Norwalk	CT
8	FIFCO USA (g)	Rochester	NY
9	Boston Beer Co. (h)	Boston	MA
10	Sierra Nevada Brewing Co.	Chico	CA
11	New Belgium Brewing Co. (i)	Fort Collins	CO
12	Craft Brew Alliance (j)	Portland	OR
13	Duvel Moortgat (k)	Paso Robles, Kansas City, Cooperstown	CA, MO, NY
14	Founders Brewing Co. (l)	Grand Rapids	MI
15	Gambrinus (m)	San Antonio, Berkeley, Portland	TX, CA, OR
16	Bell's Brewery Inc. (n)	Comstock	MI
17	CANarchy (o)	Longmont, Tampa, Salt Lake City, Comstock, Inglewood, Dallas	CO, FL, UT, MI, CA, TX
18	Stone Brewing Co.	Escondido	CA
19	Deschutes Brewery	Bend	OR
20	Artisanal Brewing Ventures (p)	Downingtown, Lakewood, Brooklyn	PA, NY, NY
21	Brooklyn Brewery	Brooklyn	NY
22	Dogfish Head Craft Brewery	Milton	DE
23	SweetWater Brewing Co.	Atlanta	GA
24	Minhas Craft Brewery (q)	Monroe	WI
25	New Glarus Brewing Co.	New Glarus	WI
26	Matt Brewing Co. (r)	Utica	NY
27	Sapporo USA (s)	La Crosse, San Francisco	WI, CA
28	Harpoon Brewery	Boston	MA
29	Alaskan Brewing Co.	Juneau	AK
30	Great Lakes Brewing Co.	Cleveland	OH

→次ページ

→次ページ

bold = small and independent craft brewery regular = big beer company & non-independent craft

2019年3月にBA（クラフトビールの団体）が公表した、「2018年クラフトビール生産量ランキング」（注：前ページのTable.3a）に、昔は上位グループにシアトル発祥のRedhook（レッドフック）があったはずだが、、今は見当たらない。

20年前にCBCでシアトルに来た当時の「東西横綱番付」は、
東の「サムアダムス」（MA州）
西の「レッドフック・エール」（WA州）と「シェラネバダ」（CA州）
といった感じだったので、CBC見学コースに、シアトル郊外の「レッドフック」の大きな醸造所も組み込まれていた。三角屋根が印象的な大規模な工場だったのをよく覚えている。

場所は、シアトル市街から車で30分ほどのウーディンヴィルという場所。ウーディンヴィルは、今やワイナリーとクラフト蒸留所で有名な街で、今回、クラフトウイスキー見学の目的で訪問したのだが、その途中、かつての「レッドフック」の工場の横を通ると、、三角屋根の工場は閉鎖され、タンクを搬出する準備中だった。

帰国後、調べてみたところ、、レッドフックは2008年に、同じく有力なクラフトブランドのウィッドマーと合併してCBA（クラフトブリューアライアンス）という会社となっていた。現在は複数のクラフトブランドを傘下に持つ会社として、NASDAQに上場している。

CBA社の生産量（71万9,000バレル@2018年）からすると、上記の「2018年クラフトビール生産量ランキング」で4位のNew Belgiumと5位のDuvel Moortgatの間に来るはずが、リストに入っていない。。。。

事情を調べてみると、CBA社の株の30%以上をAB InBev（世界最大手バドワイザーの、アンハイザーインベブ）が持っている。故に、BAのクラフトの定義（「大手酒類企業の持ち分が25%未満」）に合致しない、したがってBAはCBA社やレッドフックをクラフトとは見なしていないのだ。

サムアダムスとCBA社（レッドフック）は両社とも、株式上場をはたした成功者で、上場後もしたたかに経営しているものの、サムアダムスと比較すると、レッドフック単独ブランドとしての勢いは衰えたようだ。

レッドフックのウーディンヴィル工場の稼働率は思わしくなく、それが工場売却の一因らしい。資金効率にシビアであろう、AB InBevの意向もあったのかもしれない。CBA社の現在の主力ブランドはハワイの「コナ」と書いてある。

レッドフックは、先述のエリシアンのある場所、キャピトルヒルの、小規模なブリューパブ注力に回帰するそうだ。時代はめぐる。。。

アメリカで最近クラフトビールを飲むと、ビンをさかさまにしたデザインの「インディペンデント・クラフト」の共通ロゴマークをつけたものがある。サムアダムスのビン製品もこのマークを付けている。

有力なクラフトビールが、AB InBevなど大手に次々買収される中、独立資本を守っているという意味で、BAが定めたマーク。レッドフックは当然、マークがつかない。2017年、**サッポロ** **ロ**が**100%買収した、サンフランシスコの「アンカースチーム」**もマークが使えないのだと思う。

（注：前ページのTable.3bの27位にサッポロが登場。従来のWI州のSapporo USAと、買収したCA州のアンカースチームの生産量を足して、全米で27位）

因みに、上記のランキング表12位の「**ブルックリンブルワリー**」への**麒麟の出資**は有名だが、その出資比率は24.5%。故に、ブルックリンはBAの定義でクラフト範疇とみなされる。

どこまでがクラフトなのかはむづかしい問題である。消費者から見れば、レッドフックもアンカーもブルックリンも、すべてクラフトだ。一方、「**サッポロの8割規模**」で「**全米のどこでも飲める**」**サムアダムス**は、クラフトなのか？と思う人もいるだろう。

（2019.10追記）

- アンカースチームは、買収される直前の2016年のクラフトランキングで22位。ブルックリンは、前ページのとおり、2018年のクラフトランキング12位、大手を含めても21位。どちらも大規模である。
- クラフトビールランキング2位のボストンビアカンパニーの2018年生産量は、アニュアルレポートによれば44万KL = 4.4mil.HL（サッポロの国内生産量の8割規模）。これはバースレポートの35位ハベコ（ベトナム）に相当する量だが、ボストンビアカンパニーはバースレポートには出てこない。Fig.5cの脚注などに書いたようにユーロモニターのデータには疑問を感じるが、バースレポートも細部では疑問がある。